

多職種連携

多職種連携入門

[講義] 第1学年 前期 必修 2単位

《履修上の留意事項》授業ではパソコンを使用することがあるので、個人用パソコンを準備すること（個人用パソコン、タブレットなどを所持していない学生は事前に教員に相談すること）。この授業は全学部・専門学校の学生の混合クラスで実施し、3～14回の授業はクラスごとにローテーションで行う。

《担当者名》薬学部： 町田拓自、中川 勉、木村 治、山本隆弘
歯学部： 飯田貴俊、荒川俊哉、豊下祥史、高田紗理
看護福祉学部： 熊谷歌織、中安隆志、三津橋梨絵 片山寛信、近藤尚也、
花淵馨也 hanab@hoku-iryu-u.ac.jp
心理科学部： 関口真有、本谷亮、西郷達雄、上河邊力、磯部太一
リハビリテーション科学部： 山口明彦yama@hoku-iryu-u.ac.jp、武田涼子、多田菊代、 浅野葉子
yokoa@hoku-iryu-u.ac.jp、坂上哲可、 小林健史 kobaken@hoku-iryu-u.ac.jp、辻村礼央奈、小島 悟
医療技術学部： 近藤 啓、遠藤輝夫、沖野久美子
臨床データサイエンス学環：笠師久美子
歯科衛生士専門学校：
客員教授：大原裕介 非常勤講師：安喰智美

【概要】

少子高齢化時代を迎えた現代社会では、保健・医療・福祉を担うそれぞれの専門職業人が、より高度で適切なケアやサービスを効率的に提供するため、チームを作り、互いに協働する「多職種連携」が必要とされている。この講義では、保健・医療・福祉の総合大学である本学における特色ある教育の一環として、多職種連携の理念と方法を知り、その具体的実践と課題について理解するため、全学部学科の学生が共に学ぶ。

【学修目標】

- 1. 多職種連携の必要性と意義について説明できる。
2. 多職種連携の目的と方法について説明できる。
3. 多職種連携の具体的実践と課題について説明できる。
4. チームの仲間と信頼関係を築きながら目標に向かって協働できる。
5. 各専門分野における多職種連携の必要性について説明できる。

【学修内容】

Table with 4 columns: 回 (1・2), テーマ (ガイダンス: 授業の進め方&多職種連携の基礎), 授業内容および学修課題 (講義全体の目的と内容、進め方の説明...), 担当者 (町田拓自 木村 治, 中川 勉 山本隆弘, etc.)

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
3・4	多職種連携のベース 連携に役に立つところのスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・関係づくりに関わるころのスキル ・対話に関わるころのスキル ・連携に関わるころのスキル ・セルフケアに関するころのスキル <授業時間外学修> 予習(60~90分):授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。 ・コミュニケーション, ノンバーバルコミュニケーション, チーム医療, オープンダイアログ, セルフケア 復習(30分~60分):学習内容を自分の言葉でまとめる。学んだころのスキルを日常生活で使うこと。	安喰智美(非) 花淵馨也 磯部太一
5・6	地域医療・福祉の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人ゆうゆうの軌跡 ・地域医療・福祉の実践における多職種連携 ・現場における多職種連携の可能性 <授業時間外学修> 予習(60~90分):授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。 ・社会福祉法人ゆうゆう, 地域医療・福祉, 地域, 高齢化, 介護, 医療費, 貧困, 障がい, 地域連携, 社会福祉士 復習(30分~60分):学習内容を自分の言葉でまとめる。	大原裕介 花淵馨也 磯部太一
7・8	グループワーク演習 : 歯学部 & 心理科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・心理科学と歯学について知る ・心理科学と歯科医療の連携について理解する ・患者と家族の関わりに配慮した医療人としての認識を涵養する <授業時間外学修> 予習(60~90分):授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。 ・歯学, 歯科医師, 口腔外科, 予防歯科学, 心理学, 臨床心理士, 公認心理師, 誤嚥性肺炎, 義歯, 変換症(転換) 復習(30分~60分):学習内容を自分の言葉でまとめる。	飯田貴俊 荒川俊哉 豊下祥史 高田紗理 関口真有 西郷達雄 本谷 亮 上河邊力 花淵馨也 磯部太一
9・10	グループワーク演習 : 看護学科 & 理学療法学科	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学と理学療法について知る ・看護師と理学療法士の連携を理解する ・事例を通じて、チームアプローチのイメージを理解する <授業時間外学修> 予習(60~90分):授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。 ・リハビリテーション, 理学療法, 理学療法士, 看護学, 看護師, 保健師, 助産師, 訪問看護ステーション, 梗塞, 麻痺, 急性期病棟, 回復期病棟, 誤嚥性肺炎, 歯周病, 言語障害(失語症), 4点杖 復習(30分~60分):学習内容を自分の言葉でまとめる。	熊谷歌織 中安隆志 三津橋梨絵 山口明彦 武田涼子 多田菊代 花淵馨也 磯部太一

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11・12	グループワーク演習 ：福祉マネジメント学科&言語聴覚療法学科	<ul style="list-style-type: none"> 臨床福祉学と言語聴覚療法学について知る 社会福祉士と言語聴覚士の連携を理解する 聴覚言語障害・嚥下障害における多職種連携を理解する <授業時間外学修> 予習(60~90分)：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べしておく。 ・言語聴覚療法学、言語聴覚士、福祉、社会福祉士(ソーシャルワーカー)、聴覚障害、言語障害、失語症、運動性構音障害、嚥下障害、リハビリテーション、失語症検査、社会復帰、社会参加、失語症友の会、会話パートナー 復習(30分~60分)：学習内容を自分の言葉でまとめる。	片山寛信 近藤尚也 小林健史 辻村礼央奈 花淵馨也 磯部太一
13・14	グループワーク演習 ：薬学部&作業療法学科&医療技術学部	<ul style="list-style-type: none"> 薬学、作業療法学、臨床検査学について知る 薬剤師、作業療法士、臨床検査技師の連携を理解する 疾患の症例から治療における多職種のかかわりと連携を理解する <授業時間外学修> 予習(60~90分)：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べしておく。 ・薬学、薬剤師、作業療法、作業療法士、臨床検査学、臨床検査技師、生活行為、生活行為向上マネジメント、作業療法評価、薬剤師法、OTC、トリアージ、学校薬剤師、病院薬剤師、疑義照会、服薬指導、リハビリテーション、バイタルサイン、薬物療法、自具、福祉用具 復習(30分~60分)：学習内容を自分の言葉でまとめる。	町田拓自 木村 治 中川 勉 山本隆弘 浅野葉子 坂上哲可 近藤 啓 遠藤輝夫 沖野久美子 花淵馨也 磯部太一 笠師久美子
15	専門分野と多職種連携 ：学部長・学環長・学校長による講義	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野における多職種連携の必要性と意義について理解する <授業時間外学修> 予習(60~90分)：これまでの講義・グループワークで学んだ内容を復習する。また、授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べる。 ・専門性、多職種連携、チーム医療、医療倫理、コミュニケーション、患者中心、利用者中心 復習(30分~60分)：学習内容を自分の言葉でまとめる。	小島 悟

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

- ・授業への積極的な取り組み60%、レポート40%。
- ・レポートは指定された形式で期限までに提出。レポート未提出の場合は - 50点
- ・授業には必ず出席し、やむをえず欠席した場合には補講を受講すること。欠席5回で失格。2コマ連続授業のため1日休むと欠席2回になるので要注意

【参考書】

- 参考書1：北島政樹 編 「医療福祉をつなぐ関連職種連携」 南江堂 2013
参考書2：埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規 2009
参考書3：内山靖ら 編 「リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論」 医歯薬出版 2020

【備考】

【本科目のICTの活用の状況】

1. 学習教材（授業資料）の配信，学習課題の提示
・ 授業資料の配布は，Google classroomを利用する。
・ レポートの提出は，Google classroomを利用する。
・ グループにおける意見交換は，クラウド上のGoogleスライドなどを活用する。
2. 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
・ 毎回，Google formを利用して感想・質問などを受け付け、適宜学生の理解度を把握する。
3. 資料は電子化したものを基本とする。

【学修の準備】

- 予習：各回の＜授業時間外学修＞を確認し、次回の授業で扱うキーワードについて、自分で調べておくこと（120分）
復習：各回の授業で学んだことをふり返り、レポート課題に取り組む（120分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）と本授業科目との関連】

(DP3)リハビリテーションの概念を深く理解し、保健・医療・福祉をはじめ多様な分野の専門職種と連携・協働し、対象者中心のチームアプローチを実践する能力を身につけている。

【実務経験】

町田拓自・木村治・笠師久美子・中川勉、山本隆弘(薬剤師), 飯田貴俊・豊下祥史・高田紗理・古市保志(歯科医師), 熊谷歌織・中安隆志・三津橋梨絵(看護師), 片山寛信・近藤尚也(社会福祉士), 関口真有・本谷亮・西郷達雄・上河邊力(公認心理師), 浅野葉子・坂上哲可(作業療法士), 武田涼子・多田菊代・小島悟(理学療法士), 小林健史・辻村礼央奈(言語聴覚士), 近藤啓・遠藤輝夫・沖野久美子(臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療人としての実務経験を活かして、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等として持つべき多職種連携医療の実践につながる教育を実施している。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している